

<福島県納税貯蓄組合連合会長賞>

## 「助け合い」

会津若松市立第二中学校

3年 今野 遥香

税金は大切だ。よく聞く言葉である。私は、税金はなくてはならないものだということまでは分かっていた。しかし、仕組みについての知識は何一つなかった。

先日、租税教室が開かれた。少し難しい話だった。けれども、学ぶことはたくさんあった。わざわざ教えに来てくださったのだから私達中学生もしっかりと考えなければならぬと思う。

今回、初めて知ったことがたくさんある。一つは、直接税と間接税についてだ。私達が納めている消費税は間接税であることが分かった。歴史の授業でたまに聞く関税があったり、ポテトチップス税があるということを知ったりもできた。税金について少し親近感がわき、もっと知りたいと思った。もう一つは景気についてだ。景気と税金の関係性について学んだ。景気が良いときに増税し、悪いときに減税しているそうだ。しかし、景気の良いときに増税したためにどんどん景気が悪くなっていくことはないのだろうかという疑問に思った。調べてみたところ、景気を良くするために必要なことは増税ではなく消費量を増やすことだということが分かった。増税をすると国の予算が増えるので安定すると思う。しかし、消費者の負担は増えてしまう。このようにして税金について考えたことは今までに一度もなかった。だから、租税教室は私達が税金に興味を持つための大きなきっかけになった。

私は、一度だけ所得税を支払ったことがある。何故かというと、小学生のときにジュニアエコノミーカレッジに参加したからだ。ジュニアエコノミーカレッジとは、模擬株式会社を設立し、商売体験ができるプログラムのことだ。実際に自分達で稼いだお金か

ら国に支払ってみて、「ああ、利益が減った。」よりも、「貢献できた。」という達成感の方が大きかった。その時はまだ小学生だったから遊び感覚だったかもしれない。しかし、今考えてみると、参加して本当に良かったと思う。

税金はなければ困る。道路に穴が空いている。学校に通えない。安全管理が不十分。そのような国にいたくない。このことから分かるのは、私達の生活は税金に守られているということだ。消費者が支払った税金で国が動く。私は、この関係は「助け合い」とも言えるのではないかと思う。一人一人が何のために税金を払うのかを考え直せば国の雰囲気もより良くなり、景気向上につながるのではないだろうか。

このように字には簡単に書けるけれど、実際、税問題はとても難しいことだと思う。今回の租税教室で私の思考の幅が大きく広がった。だから、まだ大きく社会に加わっていないこの時期を利用してたくさん考えていきたい。まずは毎朝、経済についてのニュースを見ることから始めようと思う。「助け合う」ための第一歩だ。